



此夏から 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

新染料を用いた 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

裁縫植物に 一反七十銭の生地に一圓の染料 反物が市場に出る

Vertical text on the far right edge of the page, likely a continuation of the main content or a separate column.

蘇そ峯ほう雜ざつ話わ

帝都より

て自分は、直覺的に朝鮮の前途は業に在りといふを信じて居た。が爲めに、便々其意見を吐たことであつた。昔の人は時を作るよりもを作れと云ふたが、朝鮮の將來はるるを作るよりも金を掘れと云ふ時期に来るであらうと思つて居た。我が内總督が、夙に鑛業の朝鮮に希望を見るを、内地の有力なる資本家につて、其の勸誘を試みたとは、朝鮮が今日朝鮮に於ける鑛業界の一新業を作る基となつたであらう。

金山に因つては海外貿易と、又は金山に因つては、近更に英國の南滿洲の如きをも、要するに金鑛の争奪に外ならず。獨逸がモリツツ問題を提起したるも、該所に於ける鐵鑛に目を著けるに外ならぬのである。

國家は鐵や、石炭や、若くは銅や金銀のみにて生存するべきものではなけれども、亦之等のものを除却して生存することは出来ぬ。米國の今日の大發達も半ばは鑛業の發展に由るものである。其勢力の大半を太平洋に及ぼしたるも、畢竟カリフォルニアの金鑛である。墨西哥米國との間に争亂の絶えぬのも、墨西哥内に於ける石油鑛が一つの原因となつて居るであらう。

朝鮮が鑛物に富んで居ることは、古い朝鮮の書物にも書いてある。今日著たる例地にあらすや。

○吾人は決して軍國主義を崇拜する歡迎意にあらすけれども、國家が獨立を維持せんと欲せば自衛防禦に必要なる武装を常になし置かざる可からざるは固より論を俟たず。

○英國は世界の自由國として多々富み人々を榮え他の欲望する所なり而して初め獨逸に對して有戰を布告するや盟つて獨逸の軍國主義を破壊せざれば已まずと絶叫せり。

○然れども獨逸の軍國主義は聯合軍の力を以てする容易に征服するの能はざるのみならず極めて強固にして優勢ならんとするや寧ろ先に軍國主義の破壊を標榜したる英國先づ獨逸に敵つて軍國主義を拜らんとす彼が從來の義勇兵制度を廢して徴兵制一度を採用したるが如きは豈に其の顯著たる例地にあらすや。

○吾人は寧ろ平和を破壊するものに加擔せず故に侵略の目的とする軍備擴張には賛成せざれども自衛防禦に必要な軍備は國家としては非ざるも充實し置かざる可からず。

○今日に於て獨逸の軍國主義を罵るは愚なり顧みて自國の軍備充實せざれば自衛防禦不能なり自衛防禦なければ其の國滅亡す今日に於て獨逸の軍國主義を罵るは愚なり。

○他國弱からんも望より自國の強からざらんことを愛へ他國の貧からんも望より自國の富まざらんことを愛へ自國にして強且つ富まば他は云ふに足らざる也。

北鮮山水
義興
(10)

東拓理事 村田俊彦

す。將來は、諸礦物の多大の發見をな
であらうと思はれる。其の長白山
に起つた民族が、國號を金と名
たこからしても、其の方面に礦
の多きことが想像せられる。日本
勢力を滿洲蒙古に及ぼす所以
は、無意識的に、恰かも磁石
鐵を吸ふ如く、此の地下の礦物に
つて、突進するものではあるまい
。舊鐵礦山の土石億萬トも出来
國家興隆、民族の發展は、金銀
相俟て居る如く思はれる。例へば、
戦國時代の盛に於て、楚國の飛甍大
一の原因は、今日の飛甍大
に於て、楚國の飛甍大
一種族の間、同一國民間、同一社會間
に於てのみならず、各諸族の間、各
各諸族の間、同一國民間、同一社會間
に於てのみならず、各諸族の間、各
之を以て貨幣の上位に置き、更に德
義の上位に置かんとするものをも生
ずるに至れる。前論の德義實と鐵神
論を作りて曰く、錢の體たる乾坤の
象あり、之を觀むこと兄の如くす
字を方孔と曰ふ、德無しして尊
勢無くして熱す。金門を排して空
間に立し、危も安からむべく、死
も活せむべく、貴も賤からむべく、
生も殺さむべくしむべし。是故に忿爭
錢にあらざれば勝たず、幽淵錢にあ
らざれば抜けず、怨讐錢にあらざれ
ば解けず、合閤錢にあらざれば發せ
ず。用中の朱衣常服の士、我が家
を敷して三三三三三三三三三三三
に足るべく、又抑知并吞文字は移
て以て當時客卿に於ける金の尊重さ
るる狀況の記載を爲すべきなり。シ
ユクスヒアも魯褒の言に似たるこ
とを述べたることあり。

金の過重視

凡そ金を以て德義の上位に置き、所
謂拜金宗と云ふ、利に奔て義を忘る
る、勇最も惡むべく、此の如く、聖
は寸斷するも尚ほ足らざるべしと雖も
金を以て貨財の上に置くことも亦甚だ
誤れる所なり。金の價あるは他の
貨財と交換し得るが故なり。何處ま
でも、二千數百金を儲かに於て、一
に希

【今日の金融界】
去月未

かへる國稅令初より逐次大國
移轉せられ今月上旬を以て其大部
の結了を見たり全國を通じて約三
百萬圓と計せられ就中大阪金庫
百萬圓と計せられ就中大阪金庫
關係著しく變化を告げ替替作用の
多かりしが戰亂以來外國市場の金融
低利なる外幣の援用に待つ所甚だ
其連用に當りて雖も又主として
設銀有るは恩地の内地銀行に於て

人々を惹きつけるに於ては、二、三の點を
外へて、而して、去月中旬と、今月上旬
と、對し滿國鐵道の拂込額二千三百萬
圓に達し、市面金融に安しく、銀行は、
すべて緩行を有しながら、去月末の
況と云ふ點、今月上旬の形勢と
し依然として、前態を保持し、無落作
六七月月一銀を喰へ、一港動

振袖も其趣を異にし、近時内地資
金（無此方面に活動するに至りし
は最も注意すべき現象にして、我内地
資金は一面には出超關係による増加
作用を有すれども他面には爲替資金
として大に活動すべき作用の展開し
てあることを忘るべからざるなり

（十一月支店報）

地生乃士一鎰者通物一鎰三四厘日
 に保合ひ味一東京市塲に於ける
 けは出手調子にして翌日拂四厘無
 件五六厘を呼び日先き尙軟弱なり
 し去月末期限の減券二千百萬兩
 金償還を見たるときは確に此の競
 状態を持續する所以なれども更に
 停雲會詩集
 雪連摩 嵯松 福尚志
 無竹有聲深瑤雪滿街冷滑塵影絕早
 見兒童呼伴來甲乙丙子談忽決把
 舞作一九投地弄之日團團一轉大
 笑一喜大同心協力遂轉雙或摩或打
 奉理堂巧成端坐連摩倖服眼驚鬚鬚

本邦は、自國の貿易の爲め、輸出品を例年より、當上半年間は輸入品も増進すべき時季なるに拘らず、寧ろ輸出貿易の旺盛なるが爲め、内資の融通を招致し、金融は即ち統にして、金貨の依然低率に徘徊せるものと觀測するの外なきなり、然れども海外貿易に從事する銀行は例年夏季に於て

東京自營金銀、正法嚴處何處
戰雲殺氣金陸天、兒輩逐心機轉
以尊爲丸擬戰車、瓊瑤野獸風立玲瓏
四大無片納、成兒戲、幾幾戲、笑、笑
行人錦衣裝、兒輩戲盡於寒山、何人能
似講涅槃、老處合掌念佛、去何兒兒戲
現世間、逐、山、鳥、驚、街、日漸、滴
林、疎、玉、體、空、不留、睡、整、九、一、時

輸入手形の資金を以て輸出手形を
進み得るに依り本銀の如きは輸入
替減少せるため勢ひ輸出爲替の資
金は市中銀行・コマーにより充足せ
られつゝ又棉花買付資金の如き
内地金融の緩慢なるを爲替關係
「送金」の方法により巧に運用せら
る。之より生れ去るに現境宛、
無題 彈思 夢遠 朱憲 廣
人事地無知の既に達義系有唯枕
上蝶飛空自憶。天涯離闊已多連。密信
欲月黃昏後。片開雲帶南浦時。相愛相
思何太早。不如情深不相思。
之喜曰一往情深

[illegible]

に於ける金の價值を論じ、金の通
力を過大視するなからんことを説
き、世に猪俵を加へたる位なり。

マタビスの飢

ワストール曰く、貨幣金、積ん
山を爲すも、飢に垂んとするマタ
ビスを救ふ能はざるにあらずや云々


を握るに、果實忽ち化して黄金とな
る、土塊、水滴、木片、觸るゝもの
皆黄金とならざるはなし。依古留羅
禁する能はず、暫くにして食物に入
る。卓上の美酒佳手に觸るゝ物亦
皆化して黄金とならざる無し。爲に
飢食するこ能はす。茲に於て王大
に海ゆるごころあり、更にバツカス

マタビスの小説の事實を藉り用ゐるものに於て、其小説に依れば、マタビスはイシヤの王なり。王或時パツカス云へる仙人に恩を施せしに、パツカス去るに際み、王の徳に報せんことを思ひ、告て曰く、王の欲するものは何物にても之を敵らんに、神通力忽ちして失せ、漸く肉は肉とし、酒は酒とし食ふことを

王喜んで満面に手に握るものをも、
吝くして黄金と可なりん病者を求む
す。仙人之を不可なりん病者を求む
の聲かざりしを以て、遂に其の神
王力を試みんと欲す。
小石を擲ると、小石
甘で、蜜下ろし
汁で、蜜下ろし

海に至れり。此世は
をひ、之より産業を獎勵せしかば
國著しく富み榮えたりと謂ふ。アリ
ストートルの時代にありては、世界
の經濟社會の範圍も未だ廣からず、
此北境の必要ありしを得たるべし。

特價六拾四錢(割引)期間六月十五日迄期間後は必ず定價に復す
新案特許 九八號
タイヨ一萬年毛筆 (定價八十錢)



本品は從來有り觸れたるものと異り頗る苦心慘憺の結果實に精巧無比の製作品なれば如何なる文字も如何なる紙質と雖も自由に書き得るは勿論構造堅牢にして永く使用に耐へ穂首は取換自在なれば實用に適し且つ經濟なり尙普通の毛筆より高尚優美にして一度墨汁を入れば端書三百枚迄は書き得れば携帯用として亦事務用として頗る便利也旅行家外勤家には最も欠く可らざる必要品なれば是非一度御試用あれ

右は今般全國發賣元タイヨ一商會と朝鮮全道一手販賣の分權所有者小野整三郎氏より其全權の委託を受け販賣を開始するに就ては此際披露として前記の特價二割引にて御需めに應じ候間至急御購求あれ

發賣元 京城太平通堂丁日 振響京城三〇〇番 京城日報社代理部

婦人世界春季增刊

郷里の譽

△見よ金剛山當選す

昨年十月以來熱烈なる歡呼中に達行したる投票一切の結果を發表す

○見よ——輿論の選定した天下の奇勝地

○見よ——彼號を見れば偉人士も地方人も一日の下に探勝地を知るを得べし

○見よ——我領土内の新風景地悉く網羅す

○見よ——記念碑と觀光團は何處に現はるか

○見よ——我社は一大記念碑を此地に建立して萬代に傳ふる大計畫を有す

本日新三景發表

選外十景

△諸國風俗名所並に料理各地の讀者より世人未知の奇聞珍聞輯出

△長篇家 渡邊 大評判となり追ては劣居となり

△庭小説 龍卷 (其四) 霞亭

△下田歌子女史執筆雪中梅は事實小説として一讀落涙する者多し

△料理改良意見

本料理は骨董的の内幕を見し

村井弦齋

三月五日發行 一冊五十錢 東京橋南屋實業社本日之振替六二〇番

100

